



現場で働く

建築生産の原点と楽しさ

南谷 修

日本大学理工学部の学生諸君こんにちは！

私は1960年（昭和35年）工学部（その昔は理工学部ではなく、工学部と称していました）卒業の南谷と申します。卒業後は縁あって鹿島建設に入社し、その後、26年間建築生産の現場で施工技術者として働き、横浜支店長を務めたあと、現在は建築系の副社長として、本社務めをしています。

現在の職務は建築全般、開発、原子力関係、安全、エンジニアリング関係、海外工事を掌握している立場です。

まずは「建築生産の原点」について考えてみたいと思

います。

皆さん、総合建設業を「建物を建てる会社」と一括りにしてしまうかもしれません。しかしながら、私は建設業とは顧客の信頼、社会の信用を得て成り立っている、ソリューションを提供する会社だと思っています。そしてその原点にあることは“働く人が働きやすい職場環境を造る”ことにあると思います。

働く人のために、働きやすい職場環境を造り、安全で安心して働いてもらうことで、良い品質のものが、より早く効率的に完成し、それにより安価となりコストもついてくるのだと確信しております。その結果として、顧客の信頼を得て、働く人からも信頼されることになるのだと思います。社会の信用あつての企業であり、未来へ永続する企業と言えます。

次に「建築生産の楽しさ」についてです。

建設業は一つ一つの現場の集合体（弊社では現在国内外で1600現場）で、その一つ一つの現場の利益の合計が会社の利益になります。ここで重要なのは、現場の決算権限がすべてその現場所長にあるということです。

言葉で書くと現場独立採算制といいますが、簡単に言うと、現場所長は世間で言う“社長”と同じです。もちろん工事金額、規模の大小がありますが、下は数十万円から、大きな建築工事では1千億円を超す工事金額の決算権限が現場所長にあるのです。弊社はその特徴が特に強い会社です。長い工事でも3年程度ですので、大きい現場なら所長の権限で3年間に1千億も使ってしまうのです。これは絶大な権限ですが、もちろん大きな責任があるのもお分かりになると思います。

私はかねてより現場所長たちと直接対話してきました。昨年1年間で全国の現場を廻り、32拠点600人以上の現場所長と会いました。現場の所長はどんなことでもできるのです。まず、造り方、手順、方法、時間まで所長の考えで自由になるのです。自分の哲学で建てられると言っても良いでしょう。どのような工法でも、どのような人と組んでも自分の思い通りになります。さらに、“時間”まで自分で決められるのは所長だけだと思います。時間を自由に使い、その使い方も自由です。さら



執務室にて



建築部長兼所長（1994）
アクトシティ（静岡県）

に歴史を変えるような百年建築を自分の手と知恵で造り上げ、歴史に残る建物を残す、その建物を世の人々がこよなく愛し続けてくれる。

このような魅力的な職業が他にあるでしょうか？ 本場に現場は魅力ある職場であると思います。

私自身も入社数年で現場所長になりましたが、最近も20代後半で所長をやってもらっている現場が実際にあります。平均では30代後半から本来の意味での所長に抜擢され、全国1600現場で活躍しています。もちろんその中には日大卒の所長も数多くいます。弊社の中で日大卒業の社員はその数も一番多く、また支店の管理部門のトップにも多くの先輩がいます。

学生諸君に最後に一言お伝えしたいと思います。是非“やんちゃ”でいてください。実はこの掲載の依頼をされた、安達俊夫先生とは先生が子供の頃からの付き合いで、先生のお兄さんと私はよく“やんちゃ”をしていました。今、会社の中でも人事をする際に、私は“やんちゃ”な人間を抜擢しています。“やんちゃ”とは決して不良ではありません。その時代、世代を超えて、背伸びをして、そして多くの気遣いができる人間でないと本当の意味の“やんちゃ”はできません。是非、学生時代に多くの経験をして、背伸びをして、多くのものを吸収して欲しいと思います。そして“やんちゃ”な学生を多く採用していきたいと思います。

皆さん、短い学生生活を謳歌し、そして頑張ってください。

(みなみたにおさむ)

略歴

1960年	日本大学工学部建築学科卒業（小野研究室）
1960年	鹿島建設(株)入社（横浜支店）
1973年	同社神奈川共済農協平塚農協ビル 所長
1984年	同社静岡市新庁舎新築 所長
1990年	同社横浜支店 建築部部长
1996年	同社横浜支店 取締役支店長
2002年	同社本社 建築技術本部副社長兼本部長
2003年	同社代表取締役副社長

地図に残る仕事

園田邦之

『地図に残る仕事』これは我が社がよく使っているキャッチコピーである。まさに現場で働くことはこのフレーズ通りであると思っている。当社に例をとればNHKの「プロジェクトX」で初回に放映された富士山測候所における山頂のレーダードームを始めとして、名もない駅前の賃貸マンションから超高層のオフィスビルまで、それぞれの場所でさまざまな建物を建設している。



作業所長を務めた最後の「現場」シェラトングランデトーキョーベイホテル（1988年3月30日竣工）

近年ではその残る仕事もグローバル化の流れにより日本地図ばかりだけでなく、世界地図にまで範囲が拡大してきている。

さて、それでは具体的にその仕事の内容とはどんなことと思われるであろう。私自身も約40年程前、初めて現場に立った時（右も左も分からず先輩社員の命令通り行動していたのであるが）を思い起こすと、今の言葉で言えばまさに想定外の連続であった。その一つの例として、入社して間もなくのことであったと記憶しているが、非常に天気の良い日にもかかわらずカッパを着て現場に来いと言われ、何故こんな天気の良い日にカッパなのかと、どうにも頭の中が疑問符だらけのまま現場に到着した。

そこでは今はあまり見かけなくなったが、既製コンクリート杭をディーゼルハンマーで打設している作業中。そして私の仕事は杭打設による沈下量の測定と記録であった。ここでようやくカッパ着用の意味を納得させられたのである。この沈下量の記録は杭1本ごとに方眼紙を貼り付け、直に鉛筆でその沈下量を測定すると同時に、杭耐力が概ねどのくらいに達しているかを確認するものであった。記録を取るのは当然ディーゼルハンマーの直近で行う。そのため、ハンマーから油滴が飛散し、記録する者はこれまた当然油を浴びることになるわけである。これは、品質管理とは何かを体で覚えさせられたほんの一例である。

現場では品質管理の他に施工計画、工程管理、作業所の環境が作業員にとって安全で快適であるかどうかの安全管理、そして立案された予算どおりに工事が推移しているかどうかのコスト管理などが主たる仕事である。それぞれを遂行するには、かなり経験的知識に基づいたデータ分析能力を含め、広範囲な知識が要求される。今でも多分、学生時代に習った知識はほとんど役立ってはいないと思う。逆に言えば、社会に出てからどれほど勉強したかでそれぞれの進路がおのずと決まってくるので

あろう。前述したように現場の環境は現在はかなり改善されたがまだ3Kといわれるように厳しい部分がある。しかし「もの作り」をする者にとって替え難いことは無から創造する喜びである。竣工間際に今まで外周を覆っていた外部足場が解体され、建物の全容が現れてきた時の達成感、感動はその仕事に携わっている者でないとなかなか味わえない。

「もの作り」の原点はよく「人づくり、人付き合い」であると言われている。大切なことは社員教育であるし職人教育である。特に現場で働く人間にとって必要とされるのはコミュニケーション能力である。今年はモーツァルト生誕250周年であるが、建築技術者は現場におけるオーケストラの指揮者であると思っている。指揮者は作曲家の楽譜をしっかりと読み取り、自分のイメージ通りに与えられたコンサートホールで楽団員を指揮し、足を運んでくれた聴衆に素晴らしい演奏を提供する。

我々も与えられた設計図からデザイナーあるいは構造設計者の意図をしっかりと汲み取り、各々の設計図をもとに与えられた現場で作業員を指揮し完成させ、発注者であるクライアントに引き渡す。そしてその後も快適に建物を使ってもらうのが使命である。

コミュニケーションが大切なのは、発注者の望んでいる機能、設計者が意図しているデザインのポイントを、作業員そして職人へ、我々が理解したことを的確に伝えることにより彼らに具現化してもらうからである。

現場で働く大きな意義は、このように我々が多くのの人々と関わりながら『地図に残る仕事』を成し遂げ、さらに『心に響く、心に残る仕事』として街づくり、社会基盤整備にも寄与することである。

(そのだくにゆき)

略歴

1965年	日本大学理工学部建築学科卒業（斎藤研究室）
1965年	大成建設㈱入社
現在	同社取締役副社長 建築総本部長兼建築本部長兼社長室副室長

現場人

八木孝生

こんにちは、私は現在現場科の現場びとです。“いえ”を軸に建築に係わっています。

近年、現場で働くこと・建設の仕事に希望が持てない若い人が増えていると聞きました。無理もない、K点(危険・きつい・汚い、など)が多いですものね。でも考え方・目線を変えると違ってきますよ。

25～6年前だったと思います。ある納品業者に質問

してみたのです。「毎日現場に重い資材を担いで納品するって大変だね。腰痛めない？」と聞くと、「若い人が続かなくてね。でも考え方で、給料いただきながら体を鍛えていると思えばありがたいことではないですか」てね。苦と楽は背中あわせと強引に考え納得しましたよ。

私、実は意匠志望で、卒業後設計事務所に入り、故郷で設計事務所を開業しようと考えていました。入所時はRC造の床伏・天伏・展開図等々の作成ばかりで、ある日本造の住宅を担当させてもらうことになり“ヤッター”ですよ。PLANは曲がりなりに作成できたのですが、木の部材が多く図面化するのに悪戦苦闘。見かねた先輩たちの手助けで何とか図面化できましたが、その時木造を知っとかんと「いかな」との思いが強くなり故郷に帰り、木造を主力とする小さな建設会社に入社、短期間のつもりが現在に至っています。

入社時、私の担当は無論設計ですが木造がよく分からないまま自分なりに勉強し図面化するのですが、職人さんたちは自分が思うほど図面を重要視していないことに気づきました。現場に行くと、絵図板に改めて間取りを描き、立派に建物ができているではないですか。それ以来、建物は職人さんたちの経験と工夫でできるものだとの思いが根底にあります。

建物を実体としてつくり、引渡しをする業である以上、安全・品質・工程・原価等々の管理は必ず必要です。また多くの人たちとの出会いがあり、コミュニケーションは特に重要だと考えています。単純に言い換えると手形(設計図)を現金化する作業が建設業かもしれませんね。

現在の“いえ”はRC造・S造・木造または混構造と構造体一つを取っても選択の幅が広く、建て主さん自身も勉強家で、さらにはインターネットで自分の好みに合った建築家を探し、依頼されるケースが大変多くなっています。渡された設計図をよく読み、意図を理解し、現地の確認をします。積算をしていると徐々に“気”が入りご縁をいただきたくってくるものです。地鎮祭(できればお願いしています)、そして着工、季節が変わっていきますが、不思議と完成した時の時節がその建物に一番あっている気がします。そんな積み重ねを繰り返すと、点が広がり、景観を変え、地域を変え、人を変えていくのではと密かに思っています。

現場では汗をかく(冷や汗も)こと、恥をかくこと、度々ありますが、専攻科目・立場で日々の充実感是不会変わらないはず。ある方より『昔は一生懸命汗をかくと結果がついてきた。現在はそれは当たり前。智慧を持って進まないといけない時代になっていますよ』とアドバイスをいただきました。また、ある方に教わりました。『小さなことができない人は大きな仕事はできない。日々小さなことを続けると習慣になり、それは癖となる。よい

癖はその人の運命を変える』とね。

仕事はおもしろがってやると楽しいかも。

(やぎたかお)

略歴

1972 年 日本大学理工学部建築学科卒業（小谷研究室）

1972 年 (株)不燃建築設計事務所

1976 年 井上建設(株)入社

現在 同社代表取締役社長

〈井上建設(株) HP <http://www.inouekensetu.jp/>〉

ものづくりを目指せ

大野宏行

私は、人口 60,000 人の養蚕とセメントの町秩父に鍛冶屋の次男として生まれた。小学校 5 年生のとき我が家の建て替えがあり、父方の実家の大工さんたちにより新築の家ができるのを見つめていた。臍を切った柱・梁がするすると組み建つ『建前』を目の当たりにした。そんな脳裏への刷り込みがいつしか建築を目指すきっかけとなったのであろう。

最近、建て売りやマンションなどの工事現場の建物は仮囲いの中でいつの間にか完成し、何の思い出もなく移り住む。建物がどのようにしてできるのか、その経緯などあまり見る機会がないのが現実である。

昨年の偽造問題から、建築に対する世の中の目が厳しくなっている。学生時代、「建築家は『聖職』である」と教育され、教師や医者と同様に建築士は過ちがあってはならない職業であると教えられ、今までそのようにやってきた。ただ、いつしか世の中には経済性・利益の追求により『聖職』という建築に携わる人々の信頼と信用をうち崩す構造計算書の偽造が生まれ、その建物が何のチェックもなく建ってしまう世の中になってしまった。本来、建物は人が生活する空間を確保することが原

点であり、安心で快適な空間を提供することを目的としている。

建築家の仕事はいつしか分業化され、意匠は意匠、構造は構造、設備は設備と分担されるようになり、本来のトータルでものづくりを見る建築家が少なくなった。私の経験の中で北九州メディアドームでの菊竹清訓先生との出会いがある。このドームは競輪発祥の地、小倉に屋根付きの競輪場とイベントもできるドームを創るプロジェクトであった。菊竹先生のデザインは、競輪選手の被るヘルメットを屋根のデザインモチーフとしたことである。これには少々驚かされた。この屋根構造は 4 メーターグリッドの上弦材と下弦材とをトラスで繋いだ構造で先生のイメージはお菓子の『ワッフル』をイメージしたトラス構造である。またドーム内の空調設備においては『エアチューブ』と称する直径 2.0m のダクトをスタンド上段に全周配置し、ドーム全体の空調を行った。この人があの建築家菊竹清訓なのかと。

その思いは、ホール・放送局、ホテル・商業施設、超高層住宅などのさまざまな再開発で出会った日本設計、日建設計、山下設計などの建築家の方々にも感じた。本来建築は意匠・構造・設備が備わり初めて『生きる』。

竹芝にあるホテル インターコンチネンタル 東京ベイの建設時、日本設計の監理の方にこんなことを言われた。「建物は、構造体ができ、内外装のお化粧ができ、電気が流れ、水が流れ、新鮮な空気が流れ、人の体ようになって初めて建築は生命を持つ」と隅田川の船上、点灯式の席で言われたことが今でも心に残っている。

建設業、特に現場に携わる人たちは、施主、設計者、監理者、施工会社、協力会社、メーカー、そして作業員、それぞれの立場で現場に係わっている。一つの作品を創るためにさまざまな人たちが携わり完成する。そんな人々との出会いのある仕事は“ものづくり”の原点である。

「凜」として建築に携わる。いつも、その気持ちを忘



競輪のヘルメットをモチーフにした北九州メディアドームの屋根



白い波をデザインしたホテル インターコンチネンタル 東京ベイ

れずにいたい。

(おおのひろゆき)

略歴

1978 年 日本大学理工学部建築学科卒業 (近江研究室)
1978 年～ 前田建設工業(株)

ものづくりへの原点回帰

武村秀志

子供の頃将来の夢として、あるときから漠然とだが「大工さん」になりたいという意識が芽生えたことを思い出す。自分の手で何かを作りたい。そんな気持ちがあったようだ。小学生のとき、夏休みの工作の宿題で自宅の模型を作った覚えがある。今で言えば頭の中で設計図を描きながらこつこつと、小さな木材を組み合わせて作り上げ、完成したときには一人悦に入っていたようだ。

母方の祖父は、大工の棟梁だったと小さいときから田舎へ行くたび聞かされており、母が子供の頃には、お弟子さんが大勢住み込みで働いていたことを子供ながら憧れを持って聞いていた。和室の鴨居には、祖父の功績をたたえる感謝状が部屋をぐるりと取り囲んでいた。母の通った高校の校舎も祖父が手がけたことを聞き、布団の中から感謝状を眺めながら、夢の世界へ入ることが心象風景として私の心に今でも鮮明に残っている。

心の奥底にあるもの、人それぞれ違う世界、何かがきっかけとなって、この建築の世界へ足を踏み入れたに違いない。

私が学生の頃、ポストモダニズム建築なる流行があり、建築に奥手であった私は、仲間の会話に一生懸命ついていった。建築論、設計論、はたまた建築的イデオロギースえ感じながら、建築って難しいな？と思いつつ、設計っ

て楽しいなとも感じ始めていた。研究室に所属した3年間は、建築に本当に真剣に向き合っていた。物(建築)を作るという行為が設計という行為で実現できると信じていた頃である。いろいろな建築作品を見て歩き、建築家の講演を聞き、雑誌を読み、あたかも自分が建築家の卵であるかのような錯覚さえ覚える日々であった。

縁あって、安藤建設(株)にお世話になることになり、社会人としてスタートを切った。私は設計志望であったが現場に配属され、自分の夢がすぐにはかなえられないもどかしさに何となく吹切れないまま日々働いていた。当時は「とにかく5年はどんなことでも経験し、我慢しよう」と心に誓っていた。何でもやった。プライドも捨てなければできないこともあった。現場は、都立高校の改築工事、大手企業の総合研究所、工場と大規模な工事に配属され忙しさの中それなりに充実していた。けれども初心忘れるべからずではないけれど、心の奥には満たされないものが漂っていた。そんな中、4年目に配属された都心の超大型工事でのこと、今でも鮮明に覚えているが、ある日一瞬にして今までのモヤモヤが晴れ渡り、目の前が開けた。なぜだかまだに不明だが、その日を境に自分は現場でやっていけると確信し、迷いなく仕事に打ち込めるようになった。「こんなこともあるんだなー」っと思うような出来事だが、私の現場マンとしてのスタートはこうして始まった。

現場マンは本当にたいへんだ。朝早くから夜遅くまで施主、設計者、職人さんや業者さんと打ち合わせをしたり指示を出したり、雨の日も風の日も現場が止まってもやることはいくらでもある。若い頃は仕事のコントロールができずに楽しいことも辛く感じてしまうことがよくあったが、現場所長として采配を振るうようになり最近では「現場ってやっぱりいいなー」とつくづく思うところである。なぜかって？他に二つとして同じものがない建物を自分のマネージメントで完成までやり遂げることができるなんて、至極の喜びであり他になんと例えようが在ることか。

大工さんを夢見ていた自分が、現場マンとしてのものづくりの原点を顧みて思い誓うことは、「人を大切に、プロセスを大事に扱い、住む人、使う人に喜ばれるモノを完成させること」と言える。是非、今の若い人にも同じ思いを体験してもらいたい。

(たけむらひでし)

略歴

1985 年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了 (若色研究室)
1985 年～ 安藤建設(株)
入社以来、さまざまな現場で施工管理に携わる。現在、小田急相模原駅北口再開発事業の作業所長を務める。



小田急相模原駅北口再開発事業の中核となる4階に免震装置がある駅ビル(上部は分譲住宅)。平成20年春には、写真のA地区が完成する。

ものづくりの喜び

福島一夫

1992年の春、大学を卒業し、街のランドマークになるような大規模な建物のプロジェクトの仕事に携わりたいという思いで(株)竹中工務店に入社した。「現場で働く」という特集への執筆を依頼され、自分自身の経験してきたものを振り返る機会を得ることができた。

入社して間もなく、最初の「現場で働く」機会が訪れた。この仕事の特徴なところなのだが、いきなり現場監督となり協力（専門工事）会社の人からは「監督さん!」と呼ばれるようになり、工事計画を立案して、自分より年上の職人さんたちに作業指示を行った。そしていまや、入社して14年が経過して、中間管理職として現場で働いている。

現場での私の主な業務は、Q（品質）・C（コスト）・D（工程）・S（安全）・E（環境）が最適なバランスとなるように検討を行い、P（計画）→D（実施）→C（チェック）→A（アクション）のサイクルを廻して、より良く仕事することにある。建物の規模にもよるのだが、着工から竣工まで何十～百社の協力（専門工事）会社を管理して建物を完成させる。今回は、現場で働いた10年の中で、思い出深いエピソードと現在担当しているプロジェクトについて紹介したいと思う。

●現場での思い出深いエピソード

マルコメ本社事務棟での工事は、私が入札段階から技術部で工事計画を行い、全体工事や工程などの計画立案を行い受注できた物件で、実際の工事でも担当した。これまでの工場施設は、他社が施工してきたが、建築に対する知識が豊富な会長が、これまでに見てきた建物の中で、良い建物だと感じたものの多くが当社の建築作品であったことから、入札時の金額は他社に比べ高いが、100年使用する本社を建設するにあたり当社を指名したとの言葉を頂いた。実際に工事が着工すると旧本社が隣接しているため、週1回程度は会長の現場巡回があった。そこで私は、コンクリートの打設や冬期での外壁タイル貼り他の高品質を確保するための他社との差別化した技術について説明を行った。竣工間際には、会長室に呼び出され、当社に工事を依頼したこと、私個人の技術的な面や仕事に対する姿勢に対しても、本当に満足したという言葉を受け、久しぶりに涙する自分がそこに居た。

●現在担当しているプロジェクト

現在、私が担当している東京ミッドタウンというプロジェクトは、都心での大規模再開発物件の一つで、旧六本木防衛庁跡地を、オフィス・ホテル・住宅・商業などの複合開発を行うものである。各棟およびランドスケープにはデザイナー・アーキテクトとしてアメリカの設計事務

所であるSOMをはじめ国内外の有名な建築デザイン事務所を複数起用したコラボレーションを行っている。当物件は当社にとっては、これまでに無い超短工期での物件で、コストも含めて厳しい環境にある。私は、その中でオフィス・ホテルを主用途とした超高層建物で鉄骨工事・制振装置工事・屋上工事他の工事計画・管理を行っている。主な日々の業務は、設計・監理事務所との打合せや検査、実際の工事計画・管理をしている。この中で、超短工期での施工や高品質の確保などさまざまな要因の実現に向けて、困難なプロセスではあるが、それを成し遂げるべく現場で働いている。

（ふくしまかずお）

略歴

- 1992年 日本大学理工学部建築学科卒業（岸谷研究室）
- 1992年 (株)竹中工務店入社
- 1993年 同社 作業所（フォアフロントプレイスⅡ期、東京都現代美術館、ヤマト運輸東京主管支店）
- 1997年 同社 技術研究所
- 1999年 同社 作業所（元麻布ヒルズ）
- 2002年 同社 東京本店技術部
- 2003年 同社 作業所（マルコメ本社事務棟）
- 2004年 同社 作業所（東京ミッドタウン）



マルコメ本社事務棟
西側正面外観



東京ミッドタウン 工事状況

駿建の執筆は、15年前、大学入学時1991年4月号以来となります。とは言っても日本武道館での入学式を前に、大学から頂いた読書感想の課題（書籍：『学生時代に何を学ぶべきか？』）が偶然掲載されていたというのが正確なところとなります。今回は、現場に携わる者の立場から、これから『ものづくり』の世界に羽ばたかせる学生の皆さんにメッセージを送りたいと思います。

●『ものづくり』は『もの創り』

「建築と建設」の違いは、故近江栄名誉教授に当時の建築概論の講義で教えていただきました。社会に出て10年余経過した今、その共通点は、「人の命」と「人の財産」を守ることであり、この業界に交わる者すべての『天命』であると思うようになりました。日本の建築業界は、施主、設計者、構造設計者、施工者で構成されていますが、その天命を基本とし、空間構成、構造体、ディテールなどを同じ立場で検討し、築き上げていくチームワークが最高の作品を仕上げます。私は大学卒業後、すぐに家業の鉄工所（分かり易くは「鉄の大工さん」）に

戻りました。今では、当社の優秀なスタッフの支えで、難易度の高い鉄骨製作と現場施工ができるようになりました。写真は当社の手掛けさせていただいた工事の一部ですが、「建築」の美しさは、複雑なプロセスが創り出す最終型であることを理解いただけたらと思います。この業界の『ものづくり』は「もの作り」ではなく『もの創り』（世界ではじめてつくること）なのです。

●『現場主義であること』

俳優：織田裕二主演の映画「踊る大捜査線」の中で、「事件は会議室で起きているのではない、現場で起きているのだ！」というセリフがありますが、この業界にも共通して云えることがあります。最終型を創るのはコンピューターや模型上ではなく『現場』なのです。イメージ的にはあまり好まれる所ではありませんが、自分の知識や能力を3次的に伸ばしてくれる最高の学校です。自らが現場主義であることが『もの創り』のプロセスをたくさん吸収し、将来的にすばらしい建築を遺せる場面に多く出会えると信じています。

今まで述べてきた内容を、日大の理工学部建築学科にだけは学生時代に勉強できる機会があります。秋の学部祭に行われる『習志野ドームコンペ』です。普段の紙の



島根県立美術館（左写真・鉄骨工事）



島根県立浜山体育館（左写真・鉄骨工事）

上だけの世界から、現寸スケールの最終型の出来上がる喜び、そのプロセスとチームワークの重要性について教えてください。これから『もの創り』の世界に羽ばたく学生の皆さんにも是非このイベントに参加していただき、将来すばらしい軌跡を創っていただきたいと思います。

最後に、今回の執筆の機会を与えていただいた本杉省三先生と、今も脈々と生き続ける『もの創り』の魂を御教授いただきました斎藤公男先生、岡田章先生に感謝を申し上げ筆を置くことにします。

(ないとうきいち)

略歴

1996 年	日本大学理工学部建築学科卒業（斎藤研究室）
1996 年	内藤鉄工(株)入社
1999 年	同社取締役鉄工部長
2006 年	同社専務取締役

「木造建築の現場で働く」

洗練されたデザイン ⇒ 伝統的意匠

吉田明義

私の父はちいさな工務店を営んでいる。そのためか、住宅といえば、木造でつくるもの。家は「買うもの」ではなく「建てるもの」という意識が強い。

近年の住宅は工業化に伴い、建設現場には職人の技術を排除した工法が主流であり、むしろそれが圧倒していると常日頃、感じる。そういう建設業の時代の流れとは反対をゆくのが、社寺建築や文化財の修理をするところにあるような気がする。そして、それに気付いたのは藤山邸に出合ったときであった。

写真①は昭和 51 年、東京都白金に自民党政治家の藤山雷太の豪邸があった。総裁選挙の落選に伴い、これらの不動産が競売にかけられ、消滅の危機であった。そのとき、名古屋の龍興寺の住職さまが、「大変貴重な建物だから、移築復元しよう」ということになった。昭和 54 年に名古屋に移転工事が完成し、愛知県指定文化財になった。それが写真②である。この建物は、京都大学の武田五一教授の設計であり、京都の醍醐寺三宝院を原型に、昭和初期の住宅様式に作り変えたものであり、洗練されたデザインは、彼が生涯で残した最高傑作と言われている。

なぜ、私がこの建物のことを書くのかというと、「洗練されたデザイン」の中にはいくつかあると思うが、そのひとつが「伝統的意匠」であると思う。構造材が化粧材であり、これほど軽快な屋根を構成できるのは木造建築でしかありえないと思っている。そして、これらの檜の構造化粧材である柱・桁梁・破風・垂木…。これらを

手にする大工は、木の特性を熟知して取り付けてゆく。それが、そのまま意匠になることが、大工職人の暗黙の共通の美意識であると思う。

逆に、そういう美意識の中で生まれたのがこの藤山邸であるとも言える気がする。

(よしだあきよし)

略歴

2000 年	日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了（石丸研究室）
2001 年～	(株)魚津社寺工務店



写真① 藤山雷太郎（東京都白金）



写真② 龍興寺 書院（名古屋市）〔上〕外観 〔下〕内観

音から学んだこと

小山内佳子

筆者略歴

1974 年 愛媛県生まれ
1998 年 日本大学理工学部建築学科卒業
1998 年 (株)穴吹工務店入社
(1999 年～2005 年 研究開発部環境開発課
2006 年～ 作品企画部作品企画課)



いつの頃からか漠然と音響に憧れのあった私は、4年生になるとあまり深くも考えず建築音響の研究室に飛び込みました。今は名誉教授の木村翔先生のところだったのですが、今となってよく入れていただけたなと思うのは、私の環境工学の成績が散々だったからで、音圧レベルと騒音レベルの違いも、何でデシベルの合成をするのかも分かっていなかったと思います。

ともかく入れたからには音響をするのだと思っていたのですが、1年先輩に知り合いの方がいて、私を含む卒業生3人でその研究を手伝うことになりました。テーマは「商業空間の音環境に関する実態把握のための基礎研究」。もともとはスピーカーメーカーから委託されたアンケート調査で、商業空間(=住宅以外すべて)で音環境がどう認識され評価されているのかを調べるものでした。

結果はほとんどの人が良い音や好みの音楽の流れている空間(店・場所)を意識して選んでいるというものでした。当たり前ようですが、音環境が与える影響の大きさを改めて確認したと同時に、私たちが本当にさまざまな音に囲まれていて生活していること、心地よかったり不快だったりするのが、無意識にさらされている音によることも多いということを認識しました。あとは、商業空間それぞれがどう評価されているか、どんな音環境が望まれているかという項目では、当時JRの発車音がベルから音楽に変わった頃でその賛否が話題になっていましたが、それよりも駅に必要とされているのはアナウンスの明瞭性だったりしました。

ただ、私たちが何より興味を持ったのは回答した「人」

についてで、アンケートの中には回答者の属性や嗜好性、価値観、音楽に対する親しみ方といったことも含まれていたもので、どういう人がどういった評価をするのかというところでした。私たちをずっと引っ張ってくださったのは当時非常勤講師でいらっしゃっていた莊美智子先生で、工事業者や集合住宅の居住者の音に対する意識調査など、どちらかという人間よりの研究をされていました。音環境に対する評価は人のさまざまな背景とそのときの状況によってかわるもの、そのなかで快適な空間を提供するためには? 新しい題材でしたから、先生も含めた皆で自由にいろいろ議論をしました。分析手法には多変量解析にチャレンジしたもの経験のない私たちのこと、途中かなり迷走したこともありましたが、なんとか無事卒業論文は完成させ、最後には桜建賞をいただくことができました。

卒業後、主に集合住宅を供給する会社に就職し、住環境にかかわる部分の性能確保のための技術開発、アフターサービスや販売の支援をしていますが、井上勝夫先生には共同研究をさせていただきながら引き続きご指導いただいています。集合住宅は入居してから周りの人を含めて生活してみないと住環境の本当のところは分からないもの。建物性能向上だけではなく住まい方の提案をしていかなければ満足にはつながらないということを日々痛感しています。住環境は建築の中で一番人に近いところを扱っているのだということを忘れないで、これからも住まいを提供していければと思っています。

(おさないよしこ・建築士)



穴吹住環境デザイン研究所
(インテリアや設備を含めた住環境の研究施設)



施工中物件での床スラブの振動測定の様子
(井上研究室の学生の方々にご協力いただきました)



棟内モデルルームでの音の勉強会の様子
(購入前に実際に音を確認できる)

ケンチクとコンピューター

内村綾乃

学生時代は然ることながら、10年前にこれほど情報技術が発展するとは思っていなかったというのが正直なところ。いま、誰もが携帯電話を持ち、「ググル」とたくさんの情報を入手でき、衛星からは自分の家の屋根まで見ることができてしまいます。数倍速で進化し続けるなか、われわれ設計する側にも当然のごとく大きく変化をもたらしました。1作目である「U_residence」は情報技術が加速しはじめた時期の1999年終わりに竣工した建築です。2世代化に対応するために両住空間に個別の断面型を与え、それは分解不可能なプリミティブとしての意味で、正方形と正円とで構成しました。それが移動する軌跡として積分された面によって立体が現れます。立方体と円錐部分は微妙な傾きと振りによって合成されています。CAD化の合理性は否めません。しかし「シリンドラー」とよんでいる円錐部分は9ミリの鉄板とリブで合成され、これは造船所で製作しましたが、1ミリと狂わない接合の精度はまさに逆行する職人の技に脱帽といったところです。

そして、さらに加速した情報技術によって起因されてきた、オフィスワークと一体化する日常生活に対応する建築、いわゆるSOHOという生活スタイルをもたらしました。最近ではさまざまな取り組みがされているようですが、まだまだ形式化されていないと思われます。

2作目の「A_residence+studio」では、黒く塗装された下部構造物は職住一体の生活スタイルで開口部がなく、ほとんど閉じられた空間の中にキッチン、コンピューターと車もが内包され、車も外部から情報を運んでくるコンピューターと等価に扱われています。閉じることでより外部とのつながりを積極的に持ち、寝食や娯楽の境界線のない生活が営まれることはSOHOとしての新しいプロトタイプになりえるのではないかと実践しています。上部は職住分離の生活スタイルで対比としてステレンスを用いて差異を表現しています。

3作目の「T_FLAT／等々力の集合住宅」では、さらに3次元CADによりかなり複雑な形態を構築することが可能となりました。多摩川に南面するロケーションの良い敷地に区画整理事業で直角二等辺三角形に取り



U_residence



T_FLAT (写真: 上田宏)



A_residence 外観
(写真: 彰国社)



A_residence スタジオ
(写真: 彰国社)

残されてしまった敷地に計画するものです。立地条件によって最大限の法規制がかかり、最大ボリュームに最大数の住戸を計画することが目標となり、効率の良いコア共用部とし斜線で切られる住戸確保のためコアを移動する方式を選択しました。コンクリート構造という条件のなか、各住戸プランの住環境を優先するため、上下階でねじれる面を折ることにより傾斜する三角形で壁面を構築することでプランの自由度を得ることができ、19戸独自性をもった住戸ができました。この計画を設計、実施レベルまでに進めることができたのは3次元CADのなせる技でした。しかし施工レベルではかなり複雑かつ難易度の高さが要求されてしまいましたが、発注者、施工者、設計者が一体の組織として計画されたことにより可能なものとなりました。

建築もデジタル化されコンピューター技術に依存しながらも、しばらくはアナログ的職人の技と共存し続ける職業であると感じています。

情報技術の進歩にともなう、そのなかで潤っている人たちのように巨万の富を得ることはこの先おとずれる兆しがないことに少々悲哀はあるものの、ものづくりに携わる喜びと期待感にさらに造り続ける意欲を駆り立ててくれることでしょう。(うちむらあやの・非常勤講師)

筆者略歴

1990 年	日本大学生産工学部建築工学科 卒業
1990～98 年	空間研究所
1998 年	A studio 設立



新任非常勤講師紹介

大森文彦 先生 (建築法規Ⅱ, 司法と建築)

略歴

1974 年 東京大学工学部建築学科卒業
1985 年 東洋大学大学院法学研究科修士課程修了
現在 東洋大学法学部教授／弁護士



建築関係の法律問題は、最近重要度を増しているが、設計や施工など建築生産に携わる者にとって、建築関係の法律問題とくに各プレーヤーの民法上の責任を十分理解することは、良質な建築物を造り上げていく上でも重要である。設計、工事監理、施工にしろ、建築の要求をベースにした契約関係に基づいて業務を遂行するからである。こうした観点から、建築生産に携わる技術者として最低限身に付けておくべき法的理解を概説する。
(おおもりふみひこ)

小川広次 先生 (デザイン基礎, 建築設計Ⅰ)



阿佐谷南の家

略歴

1982 年 日本大学理工学部建築学科卒業
1982～83 年 (株)計画設計工房
1983～92 年 (株)谷口建築設計研究所
1991 年 (株)小川広次建築設計事務所 代表取締役



建築の探求は物の存在についての探求であり、それは空間の探求となる。空間は人間の存在にとって根源的、かつ必要不可欠なものであり、物理的にも精神的にも多大な影響を及ぼす。そして、空間は人間形成に重大な影響を与える環境となる。環境とは一定の空間に留まらず周辺地域、都市、自然等と同義である。建築の基本要素である機能性、経済性、信頼性、安全性、意匠性等を深く追求することは当然ながら、建築家はたとえ小さな建築でさえ、常にパースアイの視点を持ち、環境全体のヴィジョンを認識して設計を行うべきであろう。
(おがわこうじ)

尾田清貴 先生 (司法と建築)

略歴

1978 年 日本大学大学院法学研究科博士前期課程修了(法学修士)
1990 年 (財)都市防犯研究センター主任研究員(警察庁所管)
1995 年 日本大学法学部専任講師(刑事政策・法学)
1998 年 同助教授
2001 年 University of California Hastings College of The Law 客員教授(3～9月)
2003 年 日本大学法学部教授



日本大学法学部では、『刑事政策・少年法』を、そして大学院では、『刑事政策特殊講義』を担当。現在、「安全な街作り」に関する埼玉県・さいたま市・春日井市・柏市・世田谷区のプロジェクトに委員等として参画。その背景には、防犯と防災は裏腹、安全な街作りは最良の刑事政策との考えがあるからです。
(おだきよたか)

世良保二 先生

(建築施工法, 建築積算・生産管理)

略歴

1979 年 日本大学理工学部建築学科卒業
1971 年～ 大成建設(株)建築部



施工に携わるものは設計図を忠実に具現化し、建築主に満足される建物を引き渡す使命があります。建物は設計者、技術者および技能作業員のチームワークで作ります。人の手で作るものですから、その出来不出来に左右されます。施工技術者は予想のつかない人間や自然、さまざまな環境を相手にして目的の物を作ります。そこには語り尽くせないくらいの苦しさや楽しさがあります。皆さんに、施工・積算の講義を通して施工の面白さをお話して、施工に興味をもっていただけたらと思います。(せらやすじ)

高橋 真 先生

(建築設計Ⅱ, Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

略歴

1979 年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1979～83 年 (株)内井昭蔵建築設計事務所
1984～85 年 ゴットフリート・ベーム建築事務所
1986 年 磯崎新アトリエ
1992 年 MTA (株)高橋真建築設計事務所設立



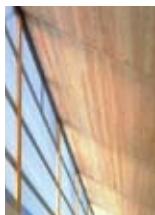
僕は子供の頃、凄い乗り物を作る科学者か技術者になりたいと思い、少年の頃は画家かグラフィックデザイナーになりたいと思っていました。結局いろいろなことができる建築を仕事にしたいと高校生くらいの時に思い、続けています。それからずいぶんいろいろな本を読んだり、街や建物や異なる世の中を見に旅行に行ったりしました。その間、いつでも工作は好きでした。僕は建築を「作る物」であると同時に、言葉のような「考える道具」だとも思っています。

(たかはしまこと)

冨永祥子 先生

(建築設計Ⅰ, 建築デザインⅠ)

中国木材名古屋事業所



略歴

1990 年 東京藝術大学大学院美術研究科修了
1992～2002 年 香山壽夫建築研究所
2002 年 福島加津也・冨永祥子建築設計事務所設立

設計は、建物の規模の大小に関わらず、とても個人的な動機が原動力になっていると思います。それは自分の価値観を問いつける作業に他なりません。そういう意味では、生活の中のどんなささやかなことにも問題意識を持ち、自分がどういう人間なのかを常々意識しておくことが大切なのではないかと思います。小手先の器用さではなく、どれだけ設計過程の中で悩み抜き、その「悩みの痕跡」をカタチとコトバにできるか。建築に関わる人なら一生続けなければならないこのプロセスを、課題を通して一緒に考えていきたいと思います。

(とみながひろこ)

中田善久 先生

(建築生産実験)

日本コンクリート工
学協会 第2回コ
ンクリートアート
ミュージアム金賞
作品「チーズ」



略歴

1990 年 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程修了
1990～2000 年 西松建設(株)勤務(建築設計部, 技術研究所, 東京建築支店)
2001 年 ものつくり大学技能工芸学部建設技能工芸学科専任講師
現在 同助教授

これまでに、主にコンクリート材料とその施工方法に関する研究や実際に建物の施工を行ってきました。建築生産実験は、教科書だけでなく、実際に材料の性質や特性を目で見て体感できる非常に重要な科目です。このことは、将来、建物を設計したり、施工したりする“ものづくり”に大きく役立ち、また、その楽しさを早く理解することができます。社会に出る前に、大学でしかできないことの一つかもしれません。楽しみながら授業に取り組んでください。

(なかたよしひさ)

西沢大良 先生
(建築設計Ⅳ, V)

略歴

1987 年 東京工業大学卒業
1987 ~ 93 年 入江經一建築設計事務所勤務
1993 年~ 西沢大良建築設計事務所 所長



西沢大良と申します。今年度から駿河台校舎で設計を教えることになりました。私は日本大学の卒業生ではないのですが、学生時代は皆さんと同じように、非常勤の先生方に設計を教わりました。篠原一男さん、坂本一成さん、原広司さん、芦原義信さん、槇文彦さん、倉俣史朗さん、などです。どの先生方もととても魅力的で、その影響から私も建築に打ち込むようになったと思います。当時の私が感じたような建築の魅力を、今度は逆の立場から、皆さんに伝えられたらと思っています。(にしざわたいら)

平野陽子 先生
(建築構法Ⅱ)

略歴

1992 年 東京大学大学院工学系研究科建築学修士課程修了
1992 ~ 1998 年 (株)竹中工務店設計部勤務
2003 年 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料物理学博士課程修了
2004 年~ (株)ドット・コーポレーション 代表取締役



私は、まだ社会に出て 15 年しか経っていませんが、それでも建築を取り巻く環境や要求される性能は社会、地域、時代によって大きく異なるんだなぁと実感しています。「建築構法」は、実務の世界では、それが独立した技術体系として存在する、あるいは専門技術者が居るといった分野ではありませんが、ものごとを多面的にとらえ、統合していこうとする「ものの見方」を少しでもお伝えできればと思っています。3 年生以降、各専門分野(歴史、デザイン、構造、材料、施工、計画、環境など)を掘り下げていく前に、建築物のなりたちを、浅く広く総合的にとらえ、自らの将来を考えるヒントにしてもらえればと思います。

(ひらのようこ)

宮城俊作 先生
(ランドスケープデザイン)

グランド
ハイアット東京



略歴

1982 年 京都大学大学院修士課程修了
1986 年 ハーバード大学デザイン学部大学院修了
1992 年~ 設計組織 PLACEMEDIA パートナー



ランドスケープをひとことで言い表すことはたいへん難しいことですが、敢えて表現するならば、土地と自然に対する人間の働きかけの結果としてたちあらわれる視覚像、ということになるでしょうか。これを、安全・審美的・持続可能で、かつ文化的なものとするために行う創造行為の総称がランドスケープデザインという職能です。この授業では、国内と海外におけるこの職能の系譜と方法論、さらには現代的な課題について、私自身の作品を含む具体的な事例を通じて論じていきます。併せて、建築との同質性と異質性についても言及できればと思います。(みやぎしゅんさく)

新藤 力 先生
(短大・インテリア計画)

石の蔵



略歴

1976 年 東京電機大学工学部建築学科卒業
~ 1978 年 同大学 阿久井喜孝研究室(軍艦島実測調査研究)
1978 年 (株)スーパーボット入社(無印良品・春秋などを担当)
1989 年 同社取締役
1995 年 (有)POWER 設立
1996 ~ 2000 年 東京電機大学工学部建築学科非常勤講師



私は、主に店舗や住空間などのインテリアデザインを仕事としています。日本のインテリアデザインは、特に商業との関わりが強く、世界でも特殊な環境にあります。セオリーもトレンドも瞬時に自己解体してしまう、何でもありの世界です。このような混沌の中では、自分だけの情報を見分ける「自分の尺度」と、容易に消費されない「自分のコンテンツ」の構築がとても重要になります。目指す分野はともかく、みんなの「オリジナルな自分」づくりのための、感受する準備、振幅する準備の手伝いができたらと考えています。

(しんどうちから)

短期大学部建設学科 オリエンテーション報告

高田康史



深川江戸資料館にて



昼食と懇談

今年度も昨年度に引き続き、1年生を対象としたオリエンテーションを「授業科目オリエンテーション」、「建築見学オリエンテーション」の2部構成によって実施しました。

●授業科目オリエンテーション

短大では、1年生の前学期より専門科目（建築計画・構造力学・建築材料・建築実験・デザイン基礎など）の学習がはじまります。そのため、建築が多くの専門分野から成り立っていること、そして、それら相互の関係を新入生に早い時期から理解してもらうことが大切になります。授業科目オリエンテーションは、新入生がスムーズに授業を受講できるよう、このような主旨により昨年度から実施したものです。

今年度の授業科目オリエンテーションは、ガイダンス期間が終了した直後、4月10日に行われました。設置科目の講義概要や目的、各授業間の関係や単位修得などの点について、構造系（黒木二三夫短大助教授）、設計・計画系（田所辰之助短大専任講師）、環境・設備系（吉野泰子短大教授）、情報系（羽入敏樹短大専任講師）の4系列の担当の先生からそれぞれ導入的な説明がなされました。なお、1年生の指導にあたっては、「オフィスアワー」や、個人的な相談窓口となる履修アドバイザー方式を導入して、学生相談の機会としています。5月の連休後には、グループに分かれて、パスカルホール特別食堂にて食事を取りながらの、先生方との交流会も実施されました。新入生には、一日も早く新しい環境に馴染んでもらいたいと思います。これらの機会は、4月はじめの履修ガイダンスとは別の意味で、新入生の大きな助けになったことと思います。

●建築見学オリエンテーション

つぎに、キャンパスを離れて、実際に建築空間を体験する建築見学オリエンテーションが5月18日に実施されました。学生同士、また教員と学生が交流を深め、クラスが一同となる良い機会になりました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、専任教員に加え、

デザイン基礎担当の非常勤講師の先生方も同行し、にぎやかな一日となりました。今回の見学テーマは「江戸、明治、そして現代建築へ」、時代の変化に沿って人々の暮らしや環境、デザインが変化することを体感しました。

まず午前中に、清澄公園近くの深川江戸資料館を見学しました。江戸時代の路地や長屋などが再現された体験型ミュージアムで、当時の生活の様子が手に取るようにわかります。また、つぎの見学先旧岩崎邸および庭園はジョサイア・コンドルの設計になる洋館で、西洋文化に影響を受けた、日本の近代建築の始まりの姿を見ることができました。

午後は、上野精養軒で昼食をとった後、上野公園内の美術館や博物館（国立西洋美術館、東京国立博物館は全員が見学、ほかに東京都美術館や東京文化会館、国際子ども図書館など）を小グループに分かれて回りました。時間が限られ、各グループとも早足の移動でしたが、引率の先生方の説明を聞きながら、さまざまなデザインの建築について理解を深めることができました。

この建築見学オリエンテーションは、学生にデジタルカメラを貸与し、パワーポイントによる見学レポートを作成するなど、建築情報リテラシーの授業ともリンクしています。たんに建築を見学するだけでなく、他の授業プログラムとも連携させ、学習意欲の啓発を図りました。

今回のオリエンテーションによって、クラスの雰囲気も一段と強い結びつきとなり、今後の2年間という濃縮された短大生活の中で、建築への興味や好奇心を持ち活気ある短大建設学科の学生として、建築・都市・環境などについての意識を高められたのではないかと思います。

（たかたやすし・副手）



法隆寺宝物館前にて

平成17年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

◆概況

昨年度に引き続き、景気の回復といわゆる2007年度問題（団塊世代の引退による求人の増加）によって、企業の求人活動も活発になっている。求人件数（表-2）でみると、昨年の異常な件数増加は例年のペースに落ち着いたが、企業の実質的な求人意欲は高かったようである。

平成17年度就職希望者は、学部・院合計で276名であったが、それに対し就職内定者が235名、内定率85.1%となり、昨年の78.9%に比べて大幅に増加した（表-1）。このこと自体は喜ばしいことであるが、15%の学生が内定を取れていないことは大変残念である。最近、いわゆる就職浪人が増えていることが社会的に問題にされているが、卒業、修了の時期を逃すと、その後の就職の関口は非常に狭くなることをよく考えて対応して欲しい。仕事に就く前から、自分には合わないといって、就職を躊躇する者が多いが、やはり自ら仕事の世界に飛び込んでいく勇氣を持ってほしい。仕事に自分を合わせることも必要で、それによって自分を磨くことができるのである。

進学者数は90名で昨年の102名より減少したが、比率でみると、昨年の35.2%に対し、33.6%で同程度であった。大学院でより専門的な知識・能力を高めることは就職にとっても有利になる。

就職でも進学でも学習成果は大いに問われることであり、普段からの学習は大切である。また就職希望者は、企業に入って実際にどのような仕事をするのか、指導教員、先輩などからよく聞いておくことが望まれる。

◆求人企業の状況

求人企業数は昨年度の1,174社から772社と大幅に減少したが、昨年、異常に多かったコンピュータ・情報系と製造業・営繕部門が例年の状況に戻ったため、ほぼ例年通りといえよう。昨年は景気回復とともに、これらの分野の求人が増えたが、建築部門で思うように採用ができなかったため、今年は元に戻ったように思われる。大手の製造業、建材メーカー、あるいは有力企業の営繕部門は、建築の学生を強く求めている。営繕部門も従来とは異なり、いわゆるファシリティーマネジメント的な仕事になってきており、企業の

経営上、重要な部門となってきた。鉄鋼、セメント、木材など主要な建築材料企業も有力な選択肢であり、もっと目を向けてもらいたいと思う。

◆就職内定者の内訳

求人企業の内訳、具体的に採用決定した企業名などは表-3および表-4A～Iを参照されたい。

最近の傾向として、いわゆるハウスメーカーへの就職が多いが、建築の設計やエンジニアリング系ではなく、住宅販売の営業部門での仕事も多い。実際にどのような分野に配属されるのかについても、事前によく情報収集しておくことが望まれる。ハウスメーカー、マンションディベロッパーなどは、人気が高いが、造る建築物が住宅に限られるのに対し、

表-2 月別求人件数

	平成17年度	平成16年度
11月	15	1
12月	28	16
1月	134	102
2月	160	128
3月	98	98
4月	88	202
5月	88	97
6月	74	102
7月	35	150
8月	8	108
9月	28	113
10月	4	51
11月	6	6
12月	6	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	772	1,174

表-1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成17年度			平成16年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	208(61)	61(10)	7(1)	236(58)	49(10)	9
就職内定者数	178(54)	50(4)	7(1)	188(43)	37(5)	7
大学院進学者数(留学希望・その他含)	90(25)	3(2)	0	102(29)	1(0)	0
就職・進学者数	268(79)	53(6)	7(1)	290(72)	38(5)	7
求人会社数	772			1,174		

やはり建設業は各種の建築物を造るので、そのような変化を考えると建設業は面白いといえる。17年度は、建設業の内定割合が昨年度の15.8%に比べ、18.1%と増加した。設備系は、求人は多いが内定者率は1.6%で、非常に少ない。この分野ももっと希望者が増えることを望みたい。

表-3の内定者数(%)は進学者も含めた数値になっているが、就職内定者に対する比率でみると、住宅・不動産がもっとも多く43.0%であ

り、これに続いて建設業が25.5%、設計事務所・インテリアが12.3%である。繰り返すが、設備系、建材・エンジニアリング系、製造業・営繕系が非常に少ない。これら部門も建築専門家として十分に働ける面白い部門である。学生諸君には、もう少し研究してもらいたいと思う。

現3年生も、9月からはいよいよ就職指導が本格化し、秋以降就職活動は本番となる。年が明けると企業の選考も最終段階を迎え、本当に入

社してくれるのかと問われる。それから考えるのではなく、年内に将来の進路を考えておくことが大切である。大学就職指導課、建築事務室、就職担当では、企業説明会なども準備し、学生諸君に種々情報提供を行う。夏休みから秋にかけて、自分の将来の進路について、友人、先輩、教員、ご家族などと積極的に話をして、準備を進めていただきたい。
(平成17年度就職担当：友澤史紀、事務担当：矢萩有美子)

表-3 求人・内定者の内訳

	求人社数				内定者数								内定者 数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	69	106	67	242	27(3)	20(2)	6(2)		5(1)		38(6)	20(2)	18.1
B 住宅・不動産	38	72	27	137	58(18)	5(1)	26(8)	2	7(3)		91(29)	7(1)	30.5
C 設備	29	35	15	79	5(1)						5(1)	0	1.6
D 設計事務所・インテリア	15	37	60	112	4(1)	2	4(1)	4	7(2)	7	15(4)	13	8.7
E 建材・エンジニアリング	29	59	19	107	6(3)	3(1)	2		1		9(3)	3(1)	3.7
F コンピュータ・情報	11	8	3	22			3	1	1(1)		4(1)	1	1.6
G 製造業・営繕・その他	36	15	4	55	5(4)	1	6(4)		2(1)	1	13(9)	2	4.7
小 計	227	332	195	754	105(30)	31(4)	47(15)	7	23(8)	8	175(53)	46(4)	68.8
H 官公庁・大学				8							3(1)	4	2.2
法人				10							0	0	0.0
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)											90(25)	3(2)	29.0
J 自営業											0	0	0.0
総 計				772							268(79)	53(6)	100.0
											321(85)		

以上の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数、求人社数…再募集は除く。

表-4A 就職先の内訳〈建設〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
竹中工務店		3					1		1	3	北野建設								1	0	1
清水建設		3							0	3	穴吹工務店							1	1	0	
鹿島建設				1				1	0	2	日立プラント建設	1								1	0
大成建設	1			1			1	1	2	2	りんかい日産建設			2					2	0	
大林組	3(1)	1							3(1)	1	共立建設			1					1	0	
戸田建設	2			1	1(1)				3(1)	1	東武谷内田建設			1					1	0	
西松建設	3								3	0	京王建設						1		1	0	
前田建設工業							1	0	1	1	松尾工務店						1(1)		1(1)	0	
熊谷組							1	1	0	1	近藤建設						1(1)		1(1)	0	
奥村組							1	2	1	2	日本建設			1					1	0	
間組	3								3	0	ダイエープロビズ						1		1	0	
フジタ				1(1)					0	1(1)	山本建設						1		1	0	
東急建設		1		1			1	1	2	2	さくら建設						1(1)		1(1)	0	
五洋建設								1(1)	0	1(1)	久保工						1		1	0	
青木あすなろ建設							1(1)		1(1)	0	万建設興業						1		1	0	
長谷工コーポレーション							1		1	0	トップラン						1		1	0	
浅沼組							2		2	0											
											総 計	13(1)	8	4	5(1)	2(1)	0	19(4)	7(1)	38(6)	20(2)

表-4B 就職先の内訳〈住宅・不動産〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
積水ハウス							12(2)	1	12(2)	1	アイフルホームテクノロジー							1		1	0
旭化成ホームズ							6(2)	1	6(2)	1	ミサワホーム西関東							1		1	0
大和ハウス工業							8(1)	1	8(1)	1	トヨタホーム東京							1(1)		1(1)	0
三井ホーム							2(1)		2(1)	0	ミサワホーム福島							1		1	0
住友林業							1		1	0	大成住宅							1		1	0
ミサワホーム							1(1)	1	1(1)	1	オダケホーム							1(1)		1(1)	0
大東建託							1		1	0	アキュラホーム							1(1)		1(1)	0
三井不動産ビルマネジメント							2(1)		2(1)	0	ゼファー							1(1)		1(1)	0
富士ハウス							1(1)		1(1)	0	セボン								1	0	1
東新住建							2(1)		2(1)	0	東京建物不動産販売							1		1	0
タマホーム							4(2)		4(2)	0	藤和不動産流通サービス							1		1	0
東急リパブル							2(1)		2(1)	0	興和不動産								1	0	1
扶桑レクセル							1		1	0	有楽土地							1		1	0
スウェーデンハウス							1		1	0	東芝不動産							1		1	0
スターツコーポレーション							1(1)		1(1)	0	Century21 オープンハウス							1(1)		1(1)	0
ボラス							2		2	0	住商シービー・リチャード・エリス							1		1	0
レオパレス 21							2		2	0	ちばりハウス							1(1)		1(1)	0
エス・バイ・エル							1		1	0	ニッテイ							1		1	0
東栄住宅								1(1)	0	1(1)	シンアイ							1		1	0
三洋ホームズ							1		1	0	ジー・ゲート							1		1	0
一条工務店							1(1)		1(1)	0	セキヤマ							1		1	0
ミサワホーム東京							1		1	0	河淳							1(1)		1(1)	0
長谷工アーベスト							1(1)		1(1)	0	木の国工房							1(1)		1(1)	0
大京管理							1(1)		1(1)	0	第一住創							1(1)		1(1)	0
アパマンショップネットワーク							1(1)		1(1)	0	オマーージュ							1		1	0
トーション							1		1	0	アイ・ウッドダイワ							1		1	0
アーネストワン							1		1	0	夢ハウジング							1		1	0
セキスイハイム千葉							3		3	0	サクセス・プロ							1		1	0
三井ホームリモデリング							1(1)		1(1)	0	三高							1(1)		1(1)	0
ウエスト			1						1	0	ノエル							1		1	0
総 計												0	0	1	0	0	0	90(29)	7(1)	91(29)	7(1)

表-4C 就職先の内訳〈設備〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
高砂熱学工業							2		2	0	日本空調サービス							1(1)		1(1)	0
大気社							1		1	0	日本電技							1		1	0
総 計												0	0	0	0	0	0	5(1)	0	5(1)	0

表-4D 就職先の内訳〈設計事務所・インテリア・コンサルタント〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		緑故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
石本建築設計事務所				1					0	1	スターツ CAM								1	0	1
エス・ティ・ティファシリティーズ			1	1					1	1	テクノシステム								1	0	1
安井建築設計事務所									1	0	1	アートデザインセンター							1	0	1
桂設計							2		0	2	古民家工房							1		1	0
金箱構造設計事務所							1		0	1	構造設計工房アルタ							1		1	0
織本匠構造設計事務所							1		0	1	ベストデザイン							1(1)		1(1)	0
飯島建築事務所							1		0	1	ケンテック							1(1)		1(1)	0
大塚建築構造設計室									1	0	1	明日香環境建築設計				1				1	0
船場							1		1	0	クリエイティブ・アルファ							1		1	0
池下設計									1	0	1	オフィス設計						1		1	0
協立建築設計事務所			1				1		2	0	彩ユニオン							1(1)		1(1)	0
大塚家具							1(1)		1(1)	0	日本住宅保証検査機構							1		1	0
日構シーエスエス							1		1	0											
総 計												0	0	2	2	1	0	12(4)	11	15(4)	13

表-4 E 就職先の内訳〈建材・エンジニアリング〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
YKK ap								3(1)	0	3(1)	タニコー							1(1)		1(1)	0
トステム							1		1	0	山崎産業					1				1	0
タカラスタンダード							1(1)		1(1)	0	三晃金属工業							1		1	0
不二サッシ							1		1	0	三洋工業					1				1	0
ジュレック							1(1)		1(1)	0	ヤスモク							1		1	0
総 計											0 0 0 0 2 0 7(3) 3(1) 9(3) 3(1)										

表-4 F 就職先の内訳〈コンピュータ・情報〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
ジャパンホームシールド								1	0	1	セプテーニ							1		1	0
インフォテック							1		1	0	プログレス・テクノロジーズ							1(1)		1(1)	0
NRI データ・iテック							1		1	0	総 計 0 0 0 0 0 0 4(1) 1 4(1) 1										

表-4 G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
西日本旅客鉄道							1(1)		1(1)	0	ジェイ・アイ・シー							1		1	0
大和証券								1	0	1	アマナ							1(1)		1(1)	0
三越							1(1)		1(1)	0	リクサン							1(1)		1(1)	0
大同生命保険							1(1)		1(1)	0	サクラインターナショナル							1(1)		1(1)	0
大和工商リース							1(1)		1(1)	0	ファルコン							1(1)		1(1)	0
サミー							1		1	0	ホンダ販売小田原							1		1	0
イオンモール							1		1	0	日本サーモニクス								1	0	1
ララ・プラン							1(1)		1(1)	0	総 計 0 0 0 0 0 0 13(9) 2 13(9) 2										

表-4 H 就職先の内訳〈官公庁・法人〉

注：(財)は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
法務省大臣官房施設課								1	0	1	藤沢市役所							1(1)		1(1)	0
さいたま市役所							1		1	0	日本大学職員				1					0	1
所沢市役所							1		1	0	日本大学理工学部建築学科副手				2					0	2
総 計											0 0 0 3 0 0 3(1) 1 3(1) 4										

表-4 I 就職先の内訳〈進学〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計		学部	大学院	計
日本大学大学院	53(11)		53(11)	玉川大学	2(1)		2(1)
早稲田大学大学院	1		1	ポリテクナレッジ(インターナショナル)	1(1)		1(1)
慶應義塾大学大学院	1		1	AMS インターナショナルメルボルン	1(1)		1(1)
東京芸術大学大学院	2		2	バンタンデザイン研究所	1(1)		1(1)
横浜国立大学大学院	1(1)		1(1)	横浜国際福祉専門学校	1		1
芝浦工業大学大学院	1		1	総合資格学院	1		1
東京造形大学大学院	1		1	留学希望	2(1)		2(1)
愛知教育大学大学院	1		1	その他	19(8)	3(2)	22(10)
上智大学	1		1				
総 計				90(25) 3(2) 93(27)			

表-5 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	13	8	21	9.5
研究室推薦	7	7	14	6.3
縁故推薦	5	0	5	2.3
自由応募	150	31	181	81.9
総 計	175	46	221	100.0

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く。

■斎藤公男教授、岡田章助教授、宮里直也非常勤講師が、ALUPROGETTO AWARD 2006（アルミニウム建築・構造物国際賞）の最優秀賞を3部門で受賞した。この賞は、5/17～20にイタリアのプレシア近郊で開催された2万人が参加するMETEF（国際アルミニウム展示会）2006に際して、近年竣工した優れたアルミ建築を表彰することを目的として企画された、世界初の国際アルミニウム建築・構造コンペである。募集は全世界にオープンで実施され、伊、英、蘭、西、伯、日本などから総数54点の応募があり、橋梁部門を含めた4部門の内、下記の3部門で最優秀作品として選ばれた。

●建築部門

「もてなしドーム」白江龍三、斎藤公男

●可動・仮設建築部門

「バイオ・ストラクチャー in 愛・地球博2005」斎藤公男、岡田章、宮里直也

●ストリート・ファニチャー部門

「オーバルドーム」斎藤公男、岡田章



バイオ・ストラクチャー in 愛・地球博2005



オーバルドーム

■5月中旬、斎藤公男教授、岡田章助教授と空間構造デザイン研究室の学生たちにより、駿河台校舎7号館前広場に休憩用テントがつけられた。本テ

教室ぶろむなード

トは、「愛・地球博2005」で実際に使用されたものを移設したもので、「テンセグリック・アンブレラ」と呼ばれる。設計（担当：宮里直也非常勤講師）は、今回の万博の基本理念「自然の叡智」に基づいた3R（Reduce, Reuse, Recycle）をテーマとしている。人力により簡単に組立、解体ができるように工夫が施され、テントの開閉が数人でも可能なシステムとディテールになっている。なお、船橋キャンパスにもいくつか建設が予定されている。



テンセグリック・アンブレラの施工の様子

■吉野泰子短大教授は、東北大学 吉野博教授、Junhong Zhao 院生、東京大学 熊谷一清助手、同 Yueyong Ni 院生、上海同済大学 Zhenhai Li 副教授、ハルビン工業大学 Jing Liu 氏、東京電力 重野孝之氏、竹中工務店 宮坂拓之氏、東京大学 柳沢幸雄教授とともに、日本建築学会論文集 JOURNAL OF ASIAN ARCHITECTURE AND BUILDING ENGINEERING（通称 JAABE）において「JAABE Best Paper Award 2005」を受賞した。これは、筆者らが2002年より推進してきた日中共同研究「中国都市住宅における設備と室内温熱空気環境に関する実態調査」に対する顕彰である。

■浜原正行海洋建築工学科教授、石井明男氏（'05修了）、末次宏光海洋建築工学科教授、中山優短大教授連名の原

著論文「矩形開口を有するコンクリート系梁の終局強度」が、日本建築学会構造系論文集 NO.604（2006年6月号）に掲載された。

■田所辰之助短大専任講師は、6月10日に大阪大学中之島センターで開催されたシンポジウム「近代工芸運動の総合的国際比較」（主催：デザイン史フォーラム）において、講演「20世紀初頭のドイツにおける工芸学校改革—ヘルマン・ムテジウスと商務省州産業局の活動をめぐって—」を行い、つづいてパネルディスカッション「ドイツ語圏における近代工芸運動」のパネラーを務めた。

■平成18年3月に博士前期課程を修了した中田弾君（野村研）が、学部4年生のときに書いた卒業研究「都心におけるコミュニティの場としての小学校内子どもの遊び場研究」が、平成18年度入学生を対象とした県立広島大学保健福祉学部の後期日程入学試験問題（小論文）に課題文として出題された。中田君の論文を受験生に示し、示された統計データの解釈や論文の解釈について問うものであった。

■三好礼益君（今村研 M1）の卒業制作「KiRin Stitch—集合住宅再開発における森林共生建築群の提案—」が学外のさまざまなコンクールで賞を受賞した。第3回卒業設計日本一決定戦（特別賞）・第29回学生設計優秀作品展（レモン賞）・JIA 東京大会（銀賞）。夏期（8/22～31）に南青山のギャラリー・間で上記の作品の特別展示会が開催される。



「KiRin Stitch—集合住宅再開発における森林共生建築群の提案—」

●駿建目次

（2006.7 Vol.34 No.2 通巻139号）

表紙「第29回 NU 建築フォーラム」

撮影：山田洋平（高宮研 M1）

現場で働く

2

短期大学部建設学科オリエンテーション報告 15

私と建築

10

平成17年度 建築学科就職状況 16

新任非常勤講師紹介

12

教室ぶろむなード 20